

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 1 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ~ 2011

課題番号：20530607

研究課題名 (和文) 高校生における進路選択に伴う時間的展望の変化プロセスの研究

研究課題名 (英文) Study on developmental processes of time perspective during career choice in high school students.

研究代表者

都筑 学 (Tsuzuki Manabu)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：90149477

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：時間的展望、進路選択、環境移行、高校生、縦断調査、学校適応

1. 研究計画の概要

本研究は、高校生が進学・就職する期間に焦点を当て、4年間にわたる縦断的調査を実施し、(1)進路選択に伴う環境移行が時間的展望に与える影響、(2)高校在学中から卒業後における時間的展望の縦断的变化、(3)時間的展望の発達過程の因果的モデル、を検討することを目的とする。

2. 研究の進捗状況

本年度までに、4年間にわたる縦断的調査研究のうちの3年間分の調査を実施し、調査データを収集してきた。

調査は、高校生調査と卒業生調査の2つの部分から構成されている。2008~2010年度においては、東京都立高校9校の生徒・卒業生を対象に、以下のような調査を実施した。

2008年度：高校3年生を対象とした第1回目の高校生調査を実施した。1,715人(男子805人、女子910人)の調査データを回収し、820人(男子366人、女子454人)から卒業後の調査への協力承諾を得た。

2009年度：高校3年生を対象とした第2回目の高校生調査を実施した。1,621人(男子746人、女子875人)の調査データを回収し、698人(男子283人、女子415人)から卒業後の調査への協力承諾を得た。卒業後の第1回目の卒業生調査も実施し、第1コホート(2008年度卒業)395人(男子154人、女子241人)の調査データを回収することができた。

2010年度：高校3年生を対象とした第3回目の高校生調査を実施した。1,415人(男子653人、女子762人)の調査データを回収し、690人(男子296人、女子394人)から卒業後の調査への協力承諾を得た。第2回

目の卒業生調査も実施し、第1コホート(2008年度卒業)の卒業2年目調査では266人、第2コホート(2009年度卒業)の卒業1年目の調査では301人の調査データを収集した。

以上のようなことから明らかなように、本年度までに、当初の研究計画通りに3回の高校生調査と2回の卒業生調査を順調に実施し、第1コホートでは3年間分、第2コホートでは2年間分、第3コホートでは1年間分の縦断的調査データを収集することができた。

また、研究成果の一部を日本心理学会第73回大会(2009)、日本教育心理学会第51回総会(2009)、日本青年心理学会第18回大会(2010)において発表した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

2010年度の高校生調査において1校が先方の都合により調査未実施と終わったが、それ以外では順調に進んでおり、貴重な縦断調査データが収集できたといえる。

4. 今後の研究の推進方策

来年度(2011年度)が最終年度であり、研究計画通りに、第3回目の卒業生調査を郵送で実施し、第1~3コホートを対象にして、引き続き縦断調査データを収集することになる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計3件)

①都筑学 高校生の進路希望が時間的展望に与える影響 日本青年心理学会第18回大会 2010年11月27日 至学館大学

②都筑学 高校生の進路希望と時間的展望 日本教育心理学会第51回総会 2009年9月20日 静岡大学

③都筑学 高校生の時間的展望の研究 日本心理学会第73回大会 2009年8月26日 立命館大学